

## 編笠山&権現岳山行報告

【山行日】2023年 10月 8日(日)~9日(月)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 15,500円

【メンバー】CL:鈴木ユ、 SL吉田、  
飯口、飯野、鈴木ミ、福島

10月8日(日) 晴れ後曇り後雨 観音平登山  
口から編笠山に登り青年小屋からピストンで権現  
岳に登り青年小屋に宿泊する。

岩舟支所P4:00=観音平 P6:20/6:35~雲海 7:30~

押手川 8:15/8:25~青年小屋 9:40/9:55~編笠山

10:30/10:45~青年小屋 11:10/11:20~ノロシ場 12:00/12:20~権現岳 13:00/13:25~青年小屋 14:45

青年小屋に泊りたいとのリクエストがあり、前回同様編笠山から権現岳に登るコースを計画した。  
岩舟支所を4:00に出発し、圏央道から中央道を進み小淵沢ICで降りて観音平の駐車場に着く。



駐車場は満車で路肩にも車が止められていたが、今回も奇跡的にトイレ脇に1台分駐車スペースが空いていた。ラッキー！！と車を止めて、出発の準備を整えトイレとストレッチを済ませたら出発する。登山口で山岳パトロールの方達が、登山届提出の確認をされていて「登山届は出しましたか？」と聞かれ、「ハイ出してあります」と答えて登山道に入る。クマザサの平坦な道を進み、古杣川に沿った登山道を登ると雲海に着く。小休止して衣服調整し、アミノバイタルや水分を補給しこれからの登りに備える。

ここからはカラマツやダケカンバ、シラビソ等の、薄暗い樹林帯の道を登るようになる。岩場も現れて急坂の登りに疲れたころ、押手川の小平地に出る。ここは分岐になっており、右に進めば青年小屋へ直行し、左に行けば編笠山へ向かう巻道になる。小休止後左に編笠山に向かう道を進んだが、途中から巻道に出てしまいそのまま青年小屋に向かう。青年小屋からは20分余分にかかるが、荷物を小屋にデポして登れるので大差は無い。青年小屋に余分な荷物をデポし編笠山に向かったが、大きな岩が重なる登山道は歩きにくく、岩に慣れない人は苦戦していた。



岩を登り切って振り返ると、この後登る権現岳や西ギボシ・東ギボシの鋭鋒が連なり素晴らしい。ここからも岩の登山道を登り、シラビソの樹林を抜けると編笠山山頂に出る。山頂からの展望は素



晴らしく、右から権現岳、赤岳、中岳と重なって、左端はドッシリとした阿弥陀岳が聳えている。南側には南アルプスの山々から鳳凰山、甲斐駒ヶ岳、北岳と連なり、その左には富士山まで見渡せる。大展望を楽しんだら来た道に戻り、青年小屋まで下って権現岳に向かう。青年小屋から北に向かって樹林帯の登山道を登り、森林限界を超えた「狼煙場」と言われる小ピークで昼食を食べる。3時頃から雨の予報なので、パンとお茶など簡単な食事で済ませ権現岳に向かう。

この先西ギボシと東ギボシの鋭鋒の岩場をクサリで通過し、権現岳との鞍部下るとハヶ岳の眺望がすばらしい。登り返すと直ぐ右に権現小屋があり、ヤセ尾根を進むと権現岳の標識が立つ。山頂は少し先の岩場を登った岩峰だが、岩峰の手前に権現岳の小さな標識が置かれている。記念写真を撮り展望を楽しんだら下山開始し、青年小屋に向かって往路に戻る。段々と雲が多くなり南アルプスの山々も、山頂部が見えなくなり、赤岳や阿弥陀岳の山頂部も雲に覆われていた。鞍部から東ギボシの岩場を通過し、一旦下って西ギボシの岩場をクサリで降りて最後の岩場の下りで事故が起きた。3m位の急なクサリ場を降りて登山道に降り、2番手の人が出ているときに後ろからア〜と言う大きな声が聞こえた。振り返ると右側の岩場を F さんが滑落して



きた。咄嗟に右に飛んで転がり落ちるFさんを止め、大丈夫か声を掛けるが応答が無い。

頭を打って脳震盪をおこしたようで、しばらくしたら意識が戻り逆さになった体を起こしてけがの状況を確認する。手足の骨折は無いようだが、左膝のズボンが破れ血がにじんでいた。安全な場所まで移動し、岩に腰かけさせて傷の応急手当をした。自力で歩けるといのでザックを吉田さんに持ってもらい、我輩のストックを貸してダブルストックで下って行く。狼煙場を過ぎたあたりから小雨が降り出し、皆さんは先に下って



らい我輩と2人でゆっくり下る。無事青年小屋に着き、受付を済ませて部屋で怪我の確認をすると、両手足に打撲傷があり膝の傷も大きな傷パッドを張っただけなので、小屋に消毒薬が無いか聞き

に行ってもらった。するとたまたま「山岳医療救助隊」の方が3名いて、わざわざ部屋まで来て丁寧に治療してくれた。その時気が付いたのですが、ヘルメットが大きくへこんでいて、もしヘルメットを被っていなかったなら、もっと大きな怪我を負っていたと思った。改めてヘルメットを被ることの大切さを思い知らされた。幸いヘルメットのお蔭で大事に至らず、すこし布団の中で休んで夕食は普通に食べられ安心した。青年小屋の美味しい夕食をいただき、炬燵でお話をしてから就寝した。

**10月9日(月) 雨 青年小屋から巻道を下り観音平に下山し、鹿の湯で温泉に浸かり岩舟支所へ帰着する。**

**青年小屋 7:00～押手川 8:40/8:50～雲海 9:30～観音平登山口 10:15/10:40＝鹿の湯 11:00/11:45＝レストラン「まきば」12:15/13:00＝岩舟支所 P15:10**

今日は雨を予測してゆっくり行動の予定だが、朝食が5:30分なので5時に起きて出発の準備を



する。外を見ると予報通り雨が降っていたが、5:30分に食堂に行き温かい朝食をいただいた。観音平まで2時間20分の行程なので、ゆっくりスタートする。支度をしてレインウエアーを着て、我々が最後に小屋を出発した。巻道を下るが、岩がゴツゴツして濡れているので、慎重に足を運びゆっくり下って行く。押手川まではコースタイム55分の所、1時間40分掛けて慎重に下って行った。休憩してから雲海までは登山道も歩き易くなり、コースタイムより10分オーバーで下れた。

雲海から観音平までのカラマツ林の中は明るくなり、Fさんの歩きも慣れて来てコースタイムで下ることが出来た。観音平の駐車場に着くと、車はほとんど無く我々の車の他2台しかなかった。レインウエアーを脱いで靴を履き替え、トイレを済ませたら温泉に向かう。観音平駐車場から八ヶ岳横断道路に出て右折し、直ぐに右折し鉢巻道路を進み「八ヶ苑鹿の湯」に着く。ここで温泉に入り昼食を食べる予定だったが、今年からレストランは休業中との事である。温泉にゆっくり浸かって疲れを取り、お土産を買って帰路につく。帰りは八ヶ岳横断道路を通って清里に出て、中部横断道路を通ることにする。

八ヶ岳横断道路を走って食事処を探したら、レストラン「まきば」の大きな建物が目に入り、ここでランチをいただくことにした。チョット高級そうなレストランで、値段も少し高いが各自好きな物をオーダーし美味しくいただいた。お土産コーナーや洋菓子の販売もしており、シュークリームやエクレアが人気のようで行列が出来ていた。我輩も行列の後ろに並び、エクレアをお土産にゲットする。皆さんも並んで、シュークリームをお土産にぶら下げて車に戻って来た。清里から国道141号線を通り、八千穂高原ICから中部横断道路へ入り、上信越道から北関東道を通って岩舟支所に帰着した。



翌日 Fさんは病院で精密検査し、右足首腓骨亀裂骨折で全治1ヶ月半の診断だったが、10日後に

は旅行に行けるくらいなので大事に至らず安堵した。